

第1学年 算数科学習指導案

日 時 平成30年 10月5日(金) 第5校時
児 童 1年1組 男子10名 女子14名 計24名
指導者 ****

1 単元名 たしざん

2 単元について

(1) 児童について

—省略—

(2) 指導にあたって

本単元では、和が10より大きい数になる加法を指導する。算数ブロックなどの半具体物を使った操作によって、被加数または加数を「10のまとまり」とし、「10といくつ」と考えていくやり方を、筋道を立てて説明できるようにしていく。既習事項の数の分解や10に対する補数についての学習、積み重ねてきたブロック操作を生かして、本単元の学習内容が深まるようにする。被加数と加数の大きさによって柔軟に対応できるように、児童の実態に合わせて指導していく。

「話す・聞く、学び合う」活動については、ペア学習を取り入れることにより、わけを付けて話したり、わからないときや迷ったときに伝えたりできる力を育てていく。また、相手の話を復唱できるくらい集中して聞くことも大事に指導していく。

本時の指導で児童は、自力解決で加数分解以外の計算の方法にどのようなものがあるか迷うと予想される。そこで、自力解決後の学び合いで10のまとまりを作ることに着目させ、被加数、加数の大小によって計算の仕方を工夫できること、つまり、被加数分解の方法に気づかせていく。また、加数分解と被加数分解の共通点や相違点、それぞれのやり方のよさについても考えさせていく。評価問題では、2種類の問題（被加数>加数、被加数<加数）を用意し、本時で学習した被加数<加数の計算で、被加数分解を使い考えられるかを確認する。その際、ペア学習を取り入れ操作や言葉などを用いて説明できるようにしていく。

3 単元の目標

◎1位数どうしの繰り上がりのある加法計算の仕方を理解し、確実にできるようにするとともに、それを用いることができるようにする。

[関心・意欲・態度]

○既習の加減計算や数の構成を基に、1位数どうしの繰り上がりのある加法計算の仕方を考えようとしている。

[数学的な考え方]

○1位数どうしの繰り上がりのある加法計算の仕方を考え、操作や言葉などを用いて表現したり工夫したりすることができる。

[技能]

○1位数どうしの繰り上がりのある加法計算が確実にできる。

[知識・理解]

○10のまとまりに着目することで、繰り上がりのある加法計算ができることを理解する。

4 本時の指導

(1) 目標

1位数どうしの繰り上がりのある加法計算で、10のまとまりをつくることに着目し、被加数、加数の大小によって計算の仕方を工夫し、言葉やブロック操作などによって説明することができる。

(2) 本時の評価の観点と具体的評価規準

評価規準	B おおむね満足できる	C 支援を要する児童への手だて
【考】10のまとまりをつくることに着目し、被加数、加数の大小によって計算の仕方を工夫し、言葉やブロック操作などによって説明している。	10のまとまりをつくることに着目して被加数を分解して計算する方法を知り、ブロック操作で説明することができる。	問題文の図やブロックなどから10のまとまりの作りやすさに着目させる。

(3) 本時の展開（6 / 13時間） 研究テーマとの関連＝☆

段階	学習活動	指導上の手立て（評価）
つかむ (10分)	<p>1 問題把握</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> たまごはあわせてなんこですか。 けいさんのしかたをかんがえましょう。 </div> <p>○ $3 + 9$ の式になる。 ○ 加数分解で答えを求める。 ○ $3 + 9 = 12$ こたえ 12こ</p> <p>2 課題設定</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> $3 + 9$ のけいさんのしかたをかんがえましょう。 </div> <p>3 見通し</p> <p>○ 式と答えは分かる。 $3 + 9 = 12$ こたえ 12こ ○ 加数分解以外の計算の仕方はないかを考える。 ○ ブロックを使う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 掲示物を使って、繰り上がりのある加法計算では、10のまとまりを作り10といくつで答えを求めたことを振り返る。 ・ 左の卵を被加数、右の卵を加数として、被加数<加数となるように留意する。 ・ 前時までの方法（加数分解）を使い全体で確認させる。 ・ ブロックは、黄色（被加数）と白（加数）を使わせる。 ・ 課題を示し、問題把握の段階で課題解決しているから終了ではないかと投げかけ、加数分解以外の計算方法を考えようとする意欲付けとする。 ・ 前時までの確認として、数えたしはしないことにふれる。
考える (20分)	<p>4 自力解決</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 9に1をたして10にする。（被加数分解） ・ 考えられない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援が必要な児童には、10のブロックのケースの空いているところに着目させ、10のまとまりを作ることに気づかせる ・ 早く終わった児童には、自分の考えの説明ができるように準備させる。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">考える (20分)</p>	<p>5 学び合い (全体学び)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 9に1をたして10にして考える。(被加数分解) ・ 加数分解と被加数分解を比べ共通点、相違点、よさを見つける。 ○ 10のまとまりをつくる。 ○ 9を分けるか3を分けるかがちがう。 ○ 3を分けた方が簡単に10を作ることができる。 ○ 9のほうがすぐ10になる。 ○ 9を分けるとブロックを動かすのが大変。 ○ 後ろ(または前)の数を分けると決めておいた方がやりやすい。 <p>6 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 被加数分解による $3 + 9$ の計算の仕方をまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">3 + 9のけいさん</p> <p>① 9は あと1で10</p> <p>② 3を2と1にわける</p> <p>③ 9に1をたして10</p> <p>④ 10と2で12。</p> <p style="text-align: center;">すぐに10になるかずをみつけて、あといくつで10になるかをかんがえる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ ブロック操作をして、被加数分解を確かめる。 ・ 式と答えを書く。 	<p>☆説明(博士)とブロック操作(ロボット)の児童を何組か指名し、発表させる。キーワード(10のまとまり、10にしやすい等)を板書する。</p> <p>☆被加数を10にすると決まっているのではないのか、と揺さぶり発問をすることで深く考えさせ、10のまとまりを作ることが重要だという事に気づかせる。</p> <p>☆今回の問題で、被加数を分けるよさについて考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 加数分解を否定するのではなく新しい考えとして被加数分解を価値つけてまとめるようにする。 ・ 加数の10に対する補数を考え被加数を分解する方法もあることをおさえる。 ・ 問題に戻り、加数分解でも被加数分解でも答えが同じになることを確認し、卵の数をおさえる。 ・ ノートにまとめる。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">生かす (15分)</p>	<p>7 評価問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ $2 + 9$、$8 + 3$から、被加数<加数の問題を自分で選び、被加数分解で計算をする。 ・ (ペア学習) 一人が説明し、聞いている人はわかったサインをかく。 <p>8 振り返り</p>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>《評価》【考】10のまとまりをつくることに着目し、被加数、加数の大小によって計算の仕方を工夫し、言葉やブロック操作などによって説明している。 (観察・プリント)</p> </div> <p>☆2種類の計算問題を用意することで、10のまとまりを作ることの大切さを理解させ、ペア学習で説明し合うことにより、考え方を確かなものにするようにしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ プリントの式や図を使って説明させる。 ・ 予備の問題を裏面に用意する。 ・ 全体で答え合わせをする。 <p>・ 友だちの考えを聞いて、よかったことやわかったことなどを発表させる。</p>